

A 13

新生期にエストロジェンを投与した未成熟マウスの子宮におけるエストロジェン受容体(ER)、c-fos、c-junの発現

山下修二¹、高柳淳²、清水信義²

慶應看護短大¹、慶應大. 医・分子生物²

出生前後にエストロジェンに曝されると、生殖器に異常や腫瘍が生じる。このメカニズムを解明する目的でERおよびエストロジェン依存性に誘導されるc-fos、c-junの発現パターンを免疫組織化学とin situ hybridizationを用いて、出生直後にdiethylstilbestrol (DES)を投与したマウスの子宮において検索した。CD-1マウスの皮下にDES(4 μ g/sesame oil)を出生後5日間投与した(DESマウス)。対照群はoilのみを投与した。3週齢のマウスに17 β -estradiol (E2)を投与し、経時的に子宮を摘出した。ERは両群とも上皮、間質、平滑筋細胞に局在し、発現パターンに顕著な差は認められなかった。c-fos mRNAおよび蛋白はE2刺激によって両群とも上皮に誘導された。対照マウスではc-fos発現のピークは2時間後であったが、DESマウスでは発現量は低いが速やかに誘導された。c-junはE2非刺激時、両群とも上皮に局在するが、E2投与により上皮での発現が抑制され、間質と平滑筋細胞で増加した。顕著な発現パターンの差は認められなかった。

A 14

皮膚における Corticotropin Releasing Hormone (CRH)、CRH レセプター (CRH-R) 及び Proopiomelanocortin (POMC) の発現

河野美乃里 1), 川名誠司 1), 永田英孝 2), 長村義之 2)

1) 日本医科大学皮膚科, 2) 東海大学病態診断系病理学部門

近年、CRH、CRH レセプター (CRH-R) 及び POMC が、皮膚においても産生されることが、明らかとなった。我々は、正常皮膚、炎症部位、母斑などを対象に、免疫組織化学的手法により、これらの蛋白の局在を、また、RT-PCR 法を用い、m RNA の発現を調べた。さらに、in situ RT-PCR 法により、それら m RNA の皮膚における発現部位を同定した。また、Laser capture microdissection により採取した脂腺細胞のみを用いて、RT-PCR 法を行い、それらの発現を確認した。結果として、正常皮膚において、CRH、CRH-R、POMC は表皮上層のケラチノサイトと、メラノサイトに同様の局在を示し毛脂腺系では外毛根鞘と脂腺細胞に強く発現を認めた。また、色素性母斑細胞や炎症部位では、蛋白、m RNA とともに、強い発現を認めた。これらの結果から、皮膚における、CRH、CRH-R 及び POMC の paracrine 又は autocrine 的制御機構と、炎症性疾患における、サイトカインとの相互作用が示唆された。